

一 般 演 題 抄 錄

20. 子宮頸癌各病期における 3 番染色体上 癌抑制遺伝子欠損と HPV 感染との関連

堂 國 阜 竹 山 淳 老 木 正 彰
星 合 昊 野 田 起 一 郎

近畿大学医学部産科婦人科学教室

目 的

子宮頸癌における 3 番染色体短腕上の癌抑制遺伝子欠損と HPV 感染との関係を, 高度異形成, 上皮内癌, 微小浸潤癌, 進行癌の各病期について比較検討を行った。

方 法

遺伝子欠損の検索は進行癌では11種類, 高度異形成, 上皮内癌, 微小浸潤癌では進行癌で認められた共通欠損領域の RFLP マーカー 6 種類を primer として PCR を行い, (PCR-RFLP 法) Image Analyzer を用いて, ヘテロ接合性の有無 (LOH) を検出することにより行った。HPV の検出は, LOH を検討した同症例のパラフィン包埋ブロック薄切切片から Papillomavirus Humann 16/18 cDNA Probe を用い In-situ Hybridization 法により行った。

成 績

進行癌において HPV 感染陽性症例15例中 7 例

(47%), HPV 感染陰性症例 6 例中 5 例 (83%) に LOH を認めた。高度異形成, 上皮内癌, では HPV, LOH 共に検出された症例は無く, 微小浸潤癌では 1 症例のみに認められた。高度異形成, 上皮内癌, 微小浸潤癌の HPV 感染陰性症例21例中10例 (48%) に LOH を認めた。

結 語

1. 高度異形成, 上皮内癌, 微小浸潤癌では HPV 感染陰性症例に LOH の検出される頻度が高かった。病変が進行するにつれ HPV 感染陰性症例における LOH の検出率は高くなる傾向であった。
2. 進行癌では HPV 感染陽性症例の約半数に LOH が検出された。また HPV, LOH 共に検出されなかったものは21例中 1 例 (4.7%) であった。以上から発癌の初期の過程では HPV 感染と 3 番染色体短腕の LOH とは別のイベントである可能性が示唆された。